

今夏の需給実績について(速報)

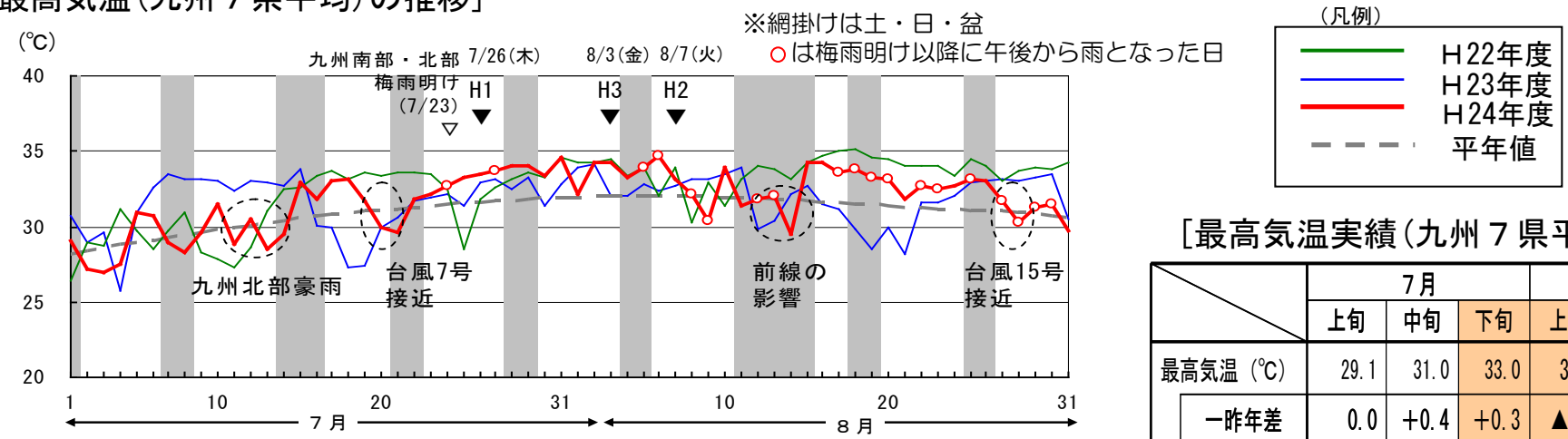
平成24年9月7日

九州電力株式会社

今夏の気象と時間最大電力の推移

- 7月中旬までは九州北部で豪雨となるなど、天候不順が続き、7月23日に平年より遅く梅雨明け。
- その後、7月下旬から8月上旬にかけては、最高気温が平年を上回る日が継続。【7月26日に時間最大電力を記録】
- 8月のお盆以降には、太平洋高気圧が強まり、高気温となる日が継続。ただし、この時期は、上空の寒気の影響を受け大気が不安定となったことから、午後からの雷雨が多発。【時間最大電力は低く推移】
- このため、九州全域が一様に高気温となる日が少なく、更に8月の最高気温は一昨年より低く推移。

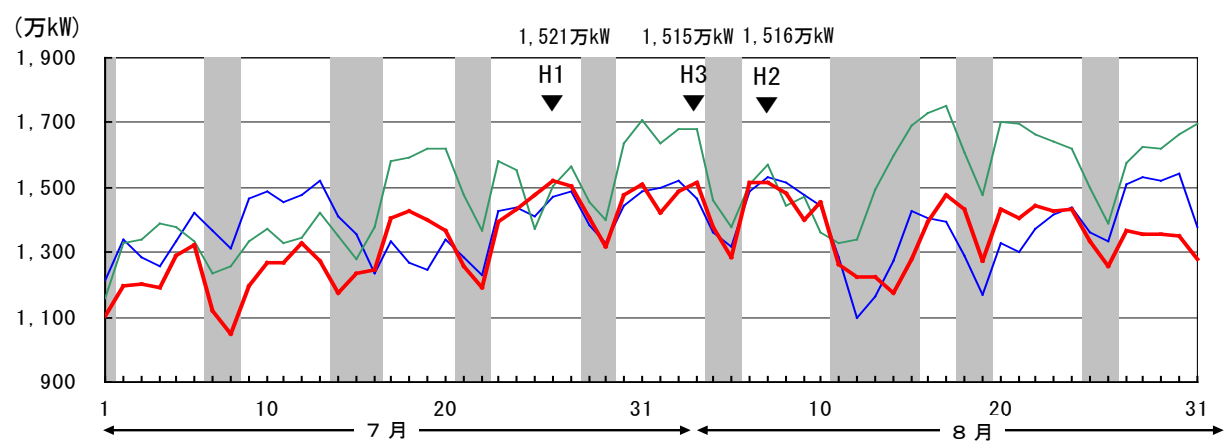
[最高気温(九州7県平均)の推移]



[最高気温実績(九州7県平均)]

	7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
最高気温(°C)	29.1	31.0	33.0	33.2	32.7	31.9
一昨年差	0.0	+0.4	+0.3	▲0.6	▲0.6	▲2.2
前年差	▲1.1	▲0.8	+1.5	+0.5	+0.9	+0.3
平年差	+0.1	+0.4	+1.4	+1.2	+1.0	+0.9

[時間最大電力(発電端)の推移]

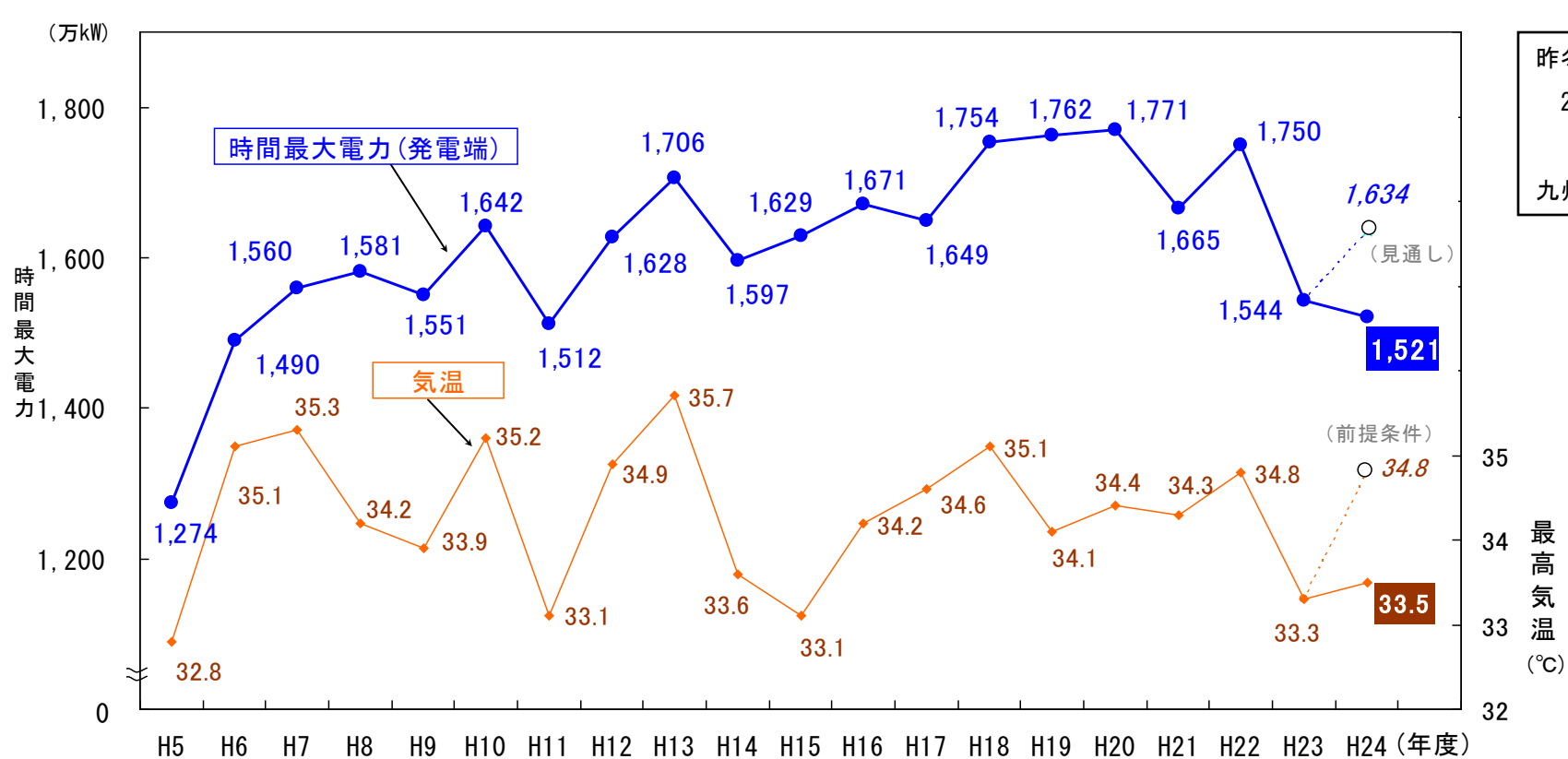


[梅雨明けの時期]

	九州北部	九州南部
H24年度	7月23日	7月23日
H23年度	7月 8日	7月 8日
H22年度	7月17日	7月20日
平年	7月19日	7月14日

時間最大電力と当日最高気温の年度別推移

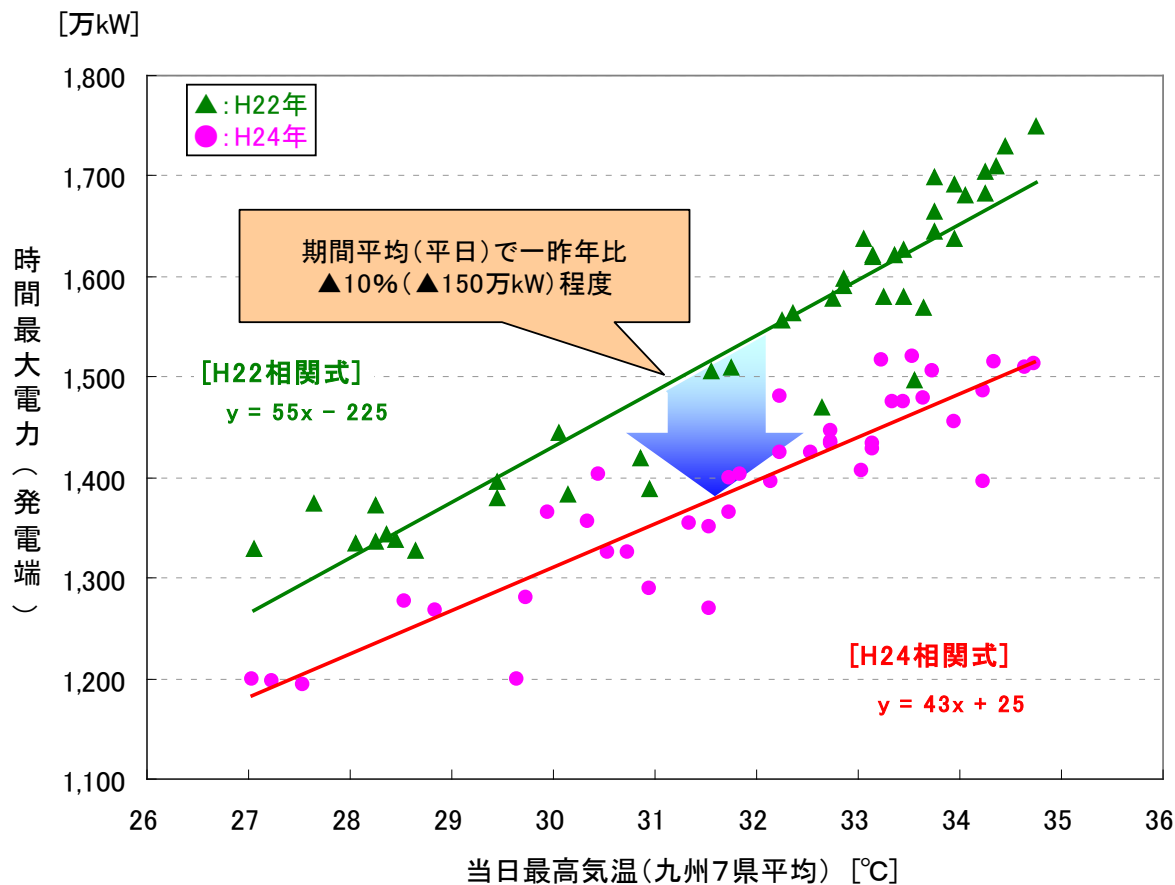
- 今夏の時間最大電力 1,521万kWは、平成6～9年度夏季相当程度の水準。
- また、昨冬の時間最大電力 1,538万kWを ▲17万kW下回った。



注) 平成24年度 需要見通し(1,634万kW)の前提条件

- ・ 昨夏相当の節電(一昨年比▲7%)を織込み
- ・ 気温は、猛暑であった平成22年度並み(34.8°C)

【最大電力と気温の相関】



【用途別の節電効果等（一昨年比）】

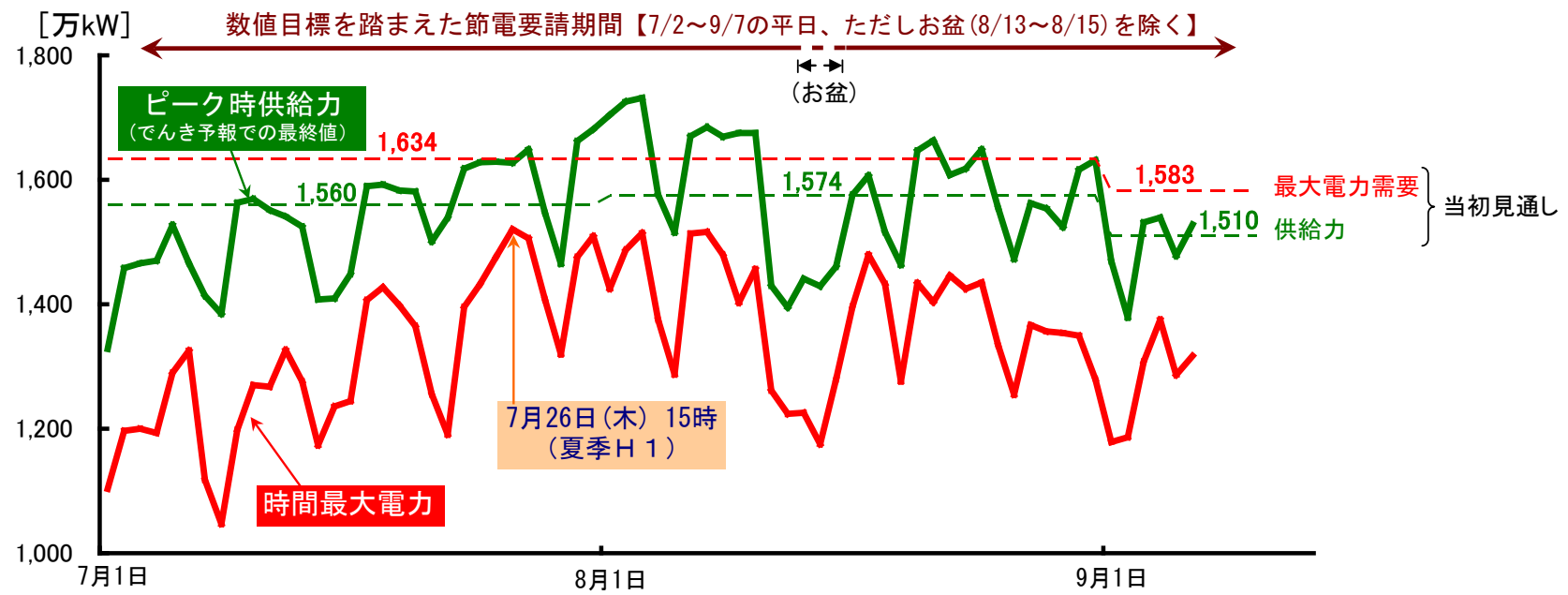
	期間平均（平日）
家庭用 （一般のお客さま）	▲12%（▲50万kW）程度
業務用 （オフィスビルなど）	▲10%（▲70万kW）程度
産業用 （工場など）	▲7%（▲30万kW）程度

	期間平均（平日）
家庭用	▲12%（▲50万kW）程度
500kW未満	▲9%（▲60万kW）程度
500kW以上	▲8%（▲40万kW）程度

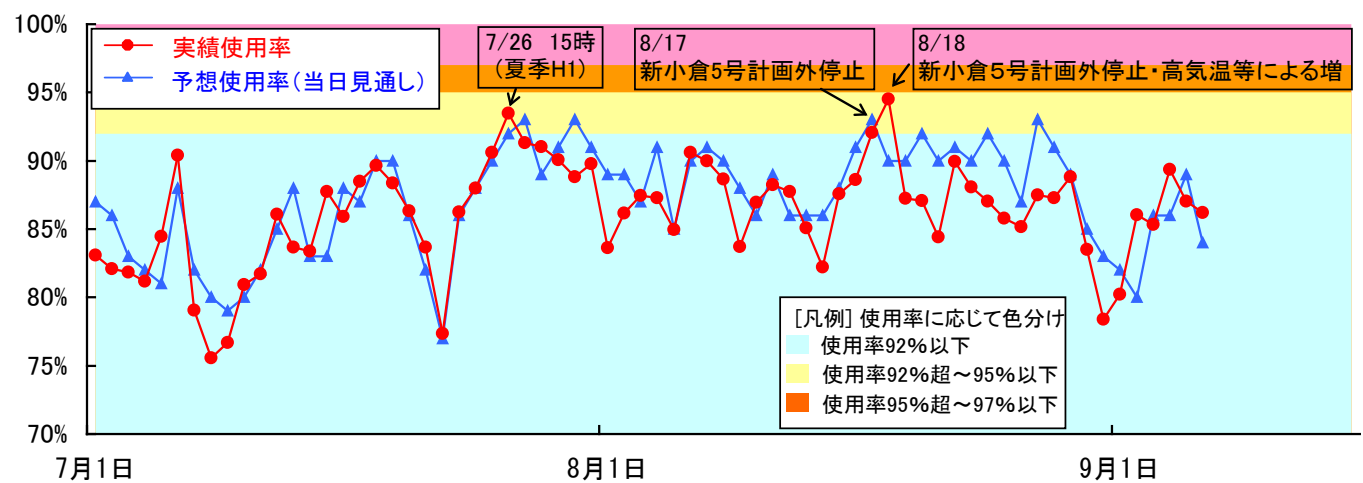
※期間は7月2日～8月31日までの平日
（お盆期間（8/13～8/15）を除く）

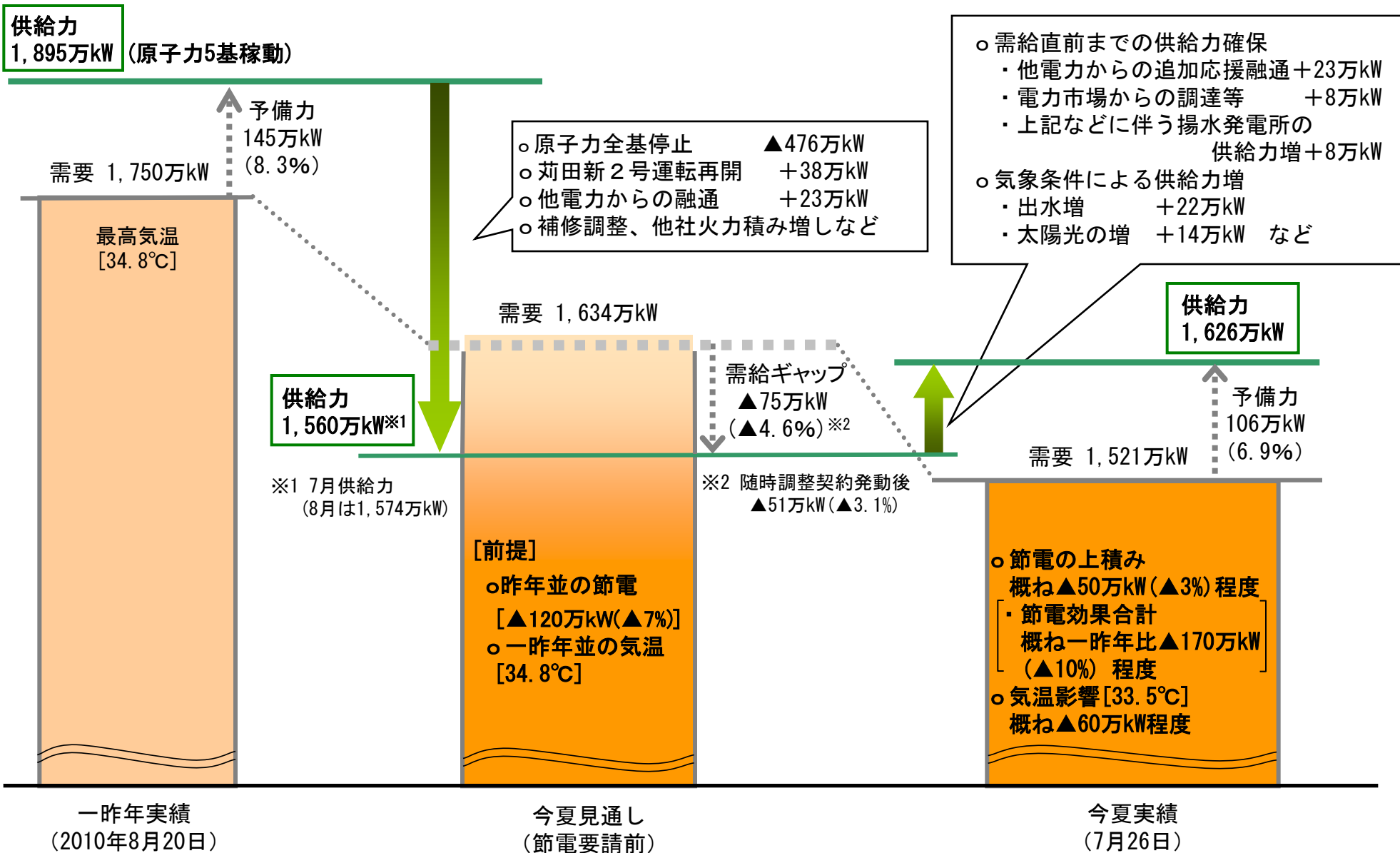
時間最大電力と供給力の推移

【時間最大電力と供給力の推移】



【使用率の推移】





- 今夏は、原子力発電所が全基停止し、厳しい需給状況となることが予想されたが、お客さまに節電のご協力をいただき、また需給両面での好条件も重なった結果、電力の安定供給を維持。

〔需要面〕

- ・ お客さまによる節電の効果（昨年実績からさらに上積み）
- ・ 最高気温が一昨年より低く推移、また、8月中下旬は高気温ながら大気の状態が不安定で、雷雨が多発

〔供給面〕

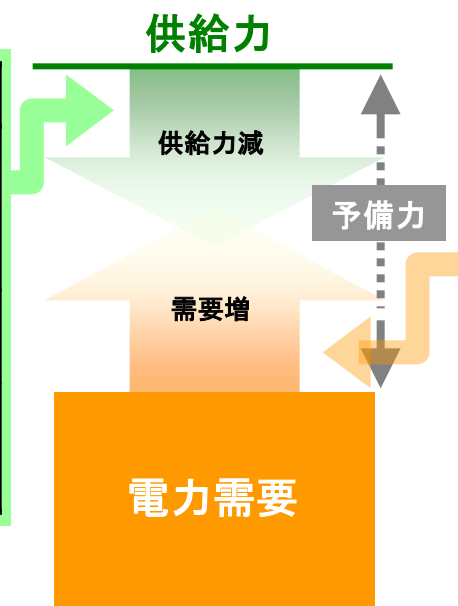
- ・ 高需要となった期間(7月下旬～8月上旬)に、主要電源の計画外停止なし
- ・ 降雨増に伴い水力供給力が増加
- ・ 中西地域におけるお客さまの節電効果に加え、大飯3,4号機再稼動※に伴う供給力増により、中西地域全体での応援融通余力が増加（供給力最大日8/3の追加の応援融通：+75万kW、市場からの電力調達：+20万kW）

※大飯原子力再稼動状況：3号機 7/9～フル運転、4号機 7/25～フル運転

- ただし、以下の需給変動リスクが顕在化した場合、より厳しい需給状況となっていたと考えられる。

〔供給面の変動リスク〕

ケース	リスク [影響量]
A-1	発電所の計画外停止 ・ 単機最大▲70万kW ・ 今夏最大実績▲96万kW(9月2日～、新小倉5+苅田新1) ・ 小丸川下ダム洪水による発電制限▲80万kW～▲120万kW
A-2	渇水による水力供給力の減 ・ 渇水の場合▲20万kW
A-3	他社の応援余力不足による融通受電の減 ・ 中西地域の予備率の減、▲1%あたり▲90万kW ・ 他社発電所の計画外停止



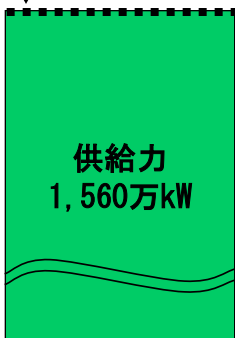
〔需要面の変動リスク〕

ケース	リスク [影響量]
B-1	猛暑による需要増 ・ 気温1℃あたり+40～50万kW
B-2	節電効果の減 ・ 節電率▲1%あたり+17万kW

今夏の想定需要見通し
(時間最大電力)

1,634万kW

予備力▲75万kW
予備率▲4.6%



供給力対策実施後

当初見通し(7月)

随時調整契約の発動による
需要減(実効量24万kW)
を見込んだ場合

1,610万kW

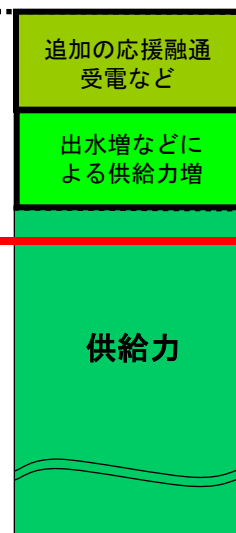
予備力▲51万kW
予備率▲3.1%



1,521万kW

今夏時間最大電力
平成24年7月26日

予備力106万kW
予備率6.9%



7月26日実績

予備力実績 : 106万kW (6.9%)

需給直前まで
追加対策実施

1,626万kW
1,595万kW
1,560万kW

他社の応援余力や
出水増が無ければ

予備力 : 39万kW (2.6%)

発電所の計画外停止(今夏最大実績相当)があった場合
(▲96万kW)

予備力 : 10万kW (0.6%)

	件数	調整電力
夏季計画調整契約（7月平日平均）	1,289件	58万kW
最大需要電力調整割引（7月実績）	46,408件	25万kW
※ スポット負荷調整契約（契約値）	605件	20万kW
※ 節電アグリゲーター（契約値）	8社	3千kW程度
※ 緊急時の節電ご協力お願いメール（9月7日時点）	9万件	—

※契約のみで要請しておりません。

お客さまからのお問合せ件数(実績)

6月22日(金)～9月4日(火)の累計問合せ件数は 約15万6千件

※ピークは節電要請期間初日 7月2日(月)の約3万3千件

(参考) 当社事業所における節電取組み

当社事業所における電力使用量削減率は、7月度で、一昨年比約30%、昨年比約18%

[主な取組み内容]

- ・ 空調の適正管理
- ・ 照明間引き
- ・ エレベーターの間引き運転
- ・ パソコンディスプレイの照度調整 等